

〔特集〕

災害時における女性のリスク

～女性が知っておくべきこと～

————— P. 2～6



アクト21 事業レポート／事業案内 ————— P. 7

アクト21 事業レポート／コラム 落合恵子 ————— P. 8

災害時における女性のリスク

～女性が知っておくべきこと～

文・正井 礼子

I 住まいと地域

阪神・淡路大震災では、男性に比べて女性が千人多く亡くなった事をご存知でしょうか。その多くが高齢の方で、死因の80%は自宅の倒壊による圧死。倒壊家屋の多くは市街地にある老朽家屋でした。

自治体によっては、家屋の耐震診断や補強の助成事業を実施しているところもあります。こうした情報収集を行い、積極的に活用することががわが身を守ることに繋がります。また、一人暮らしの若い女性は近隣に家族や知り合いが居ない

III パート労働者の大量解雇発生

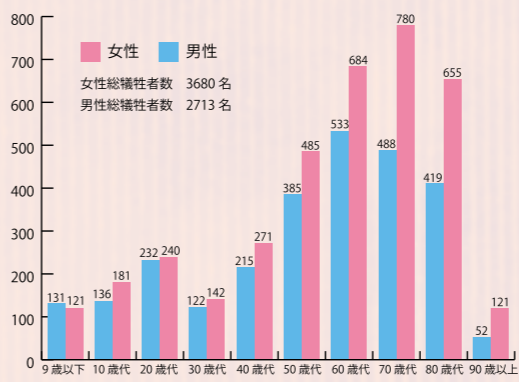
震災から数ヶ月の間に、神戸・阪神間で10万人とも言われる人たちが解雇されました。その多くは女性のパート労働者で、雇用保険に入っていないという法違反、無権利状態も震災を契機に明るみにできました。保育所の閉鎖により子どもだけを自宅に置いておけない不安から、職場に行けなくなり、解雇されるなど、便乗解雇も少なくありませんでした。

災害を理由にいきなり解雇を告げられても、言われるままに辞める必要はなく、保留して、組合や相談機関へ相談しましょう。また、勤め先の災害特別休暇制度の有無等も事前に確認しておきましょう。

IV 避難所での生活 く女性も積極的に 避難所運営に関わろう

今回の東日本大震災で阪神・淡路大震災と変わったことは、女性団体だけでなく、内閣府男女共同参画局なども女性更衣室やプライバシーの確保、避難所運営に女性のリ

阪神・淡路大震災の男女別犠牲者数 (出典:兵庫県)



ことが多く、被災時の発見・救出が遅れてしまいます。町会や自治会・同じアパートの住人・地域での活動

阪神・淡路大震災や東日本大震災。テレビや雑誌には被災地の悲惨な光景が映し出されていましたが、そこには現れていない女性特有の問題が、現地の相談窓口には多数寄せられていました。女性だからこそ気をつけなくてはいけないリスク。知って、備えておくことで、わが身や大切な人を守ることができるはずです。「防災」とは、それぞれの日常生活と深く関係しているのです。今号の特集は、阪神・淡路大震災の時に、被災地で女性の支援をし、カウンセラーとして相談を受けていた専門家のお話をはじめ、災害への備えのポイント、区の防災施策などについてご紹介いたします。これを機に、「あなたの防災」を見直してみてください。

II 家庭

会社が借り上げたホテルに夫が単身赴任したため、乳幼児や高齢者を抱えた妻が被災地に取り残され、過酷な状況下での家の仕事など、大きな負担が彼女たちに降り懸かりました。震度7の神戸では1ヶ月間激しい余震があり、追い詰められた母親が子どもを虐待するという報告も多かったです。

妊婦や出産直後の女性たちは、保健所での定期健診や家庭訪問な

仲間などとの繋がりがネットワークをつくっておくことも大切です。

どが中止となり、情報や夫の協力も少なく、不規則な食生活や過労も加わり、さまざまな不安や孤立感を抱えていました。ここでは妊婦や乳幼児を抱えた母親への支援の充実が求められていました。こうした過去の教訓から、災害時には行政や民間団体が協力し、女性のための電話相談を行うようになりしました。仕事・子育て・DVなどで悩んだとき・困ったときは、電話相談や保健師による避難所の巡回訪問などを活用し、一人で問題を抱え込まないようにしましょう。

8ヶ月なのに、子どもなんかもういらんと言つて暴力を振るわれる」などの相談が増え続けました。なかでも「皆さんが被災されて大変な時に、こんなつまらない家庭内の揉め事を相談をする私は、わがままでしょうか?」と言われたことが忘れられません。

震災後、数ヶ月間、神戸の街はほとんど暗かったです。暗い街中での性犯罪や仮設住宅内での性被害などが報告されました。避難所や仮設住宅など、そこで暮らせない状況の中では、被害者の多くは沈黙を強いられ、社会も被害を無かったものにする傾向が強いです。「災害時の女性に対する暴力防

止」に関しては行政や警察の取り組みが不可欠です。ボランティアもふくめて女性は一人では行動しにくい、トイレやお風呂に行くときは声をかけあつて複数で利用するなどの注意も安全には必要なことかと思われま

「防災」は日常から始まります。女性が結婚していてもしていても、子どもがいてもいなくても、一人でも安心して暮らせる街づくりが、防災につながります。そのためには、日頃から、女性も自分で考え、判断し、積極的に地域活動や街づくりなどに参画して、女性の声を区政に反映させてい

V 災害と女性への暴力増加

阪神・淡路大震災の直後に、女性支援ネットワークをたちあげ「女性のための電話相談」を開設したところ、その6割はDV相談でした。「家が全壊し夫の実家にいる。3歳の娘の前でも平気で殴られる」「妊娠

I 区の耐震診断・建替え補助

大規模地震による倒壊等のおそれがある建物について、耐震診断の補助とそれに基づく耐震補強工事及び耐震建替え工事の補助を行っています。(担当:住環境整備課)

II 家具類の転倒・落下防止器具の取り付け工事の助成

65歳以上の高齢者の方の世帯・障害者手帳をお持ちの方の世帯を対象に器具の取り付け工事費用の一部を助成しています。(担当:防災課)

III 防災に関する出張講話

防災について、知りたい・学びたいグループを対象に、出張による防災講話を実施します。各グループに応じた防災の取り組み等をアドバイスします。(担当課:防災課)

IV 荒川区では、災害に強い安全・安心なまちづくりを進めています

区は、防災にむけて上記のようなさまざまな事業展開を行い、『週間ダイヤモンド』の特集「防災力ランキング」で震災に強い街として第1位を、『日経グローバル』の「自治体の災害対応力」で第3位を獲得しました!

Profile 正井 礼子

NPO法人女性と子ども支援センターウイメンズネット・こうべ代表。阪神・淡路大震災直後「女性支援ネットワーク」をたちあげ被災女性の支援を行う。2005年に防災フォーラム「災害と女性～防災と復興に女性の参画を～」を開催。防災・復興計画の策定に女性の参画の必要性を訴えた。東日本大震災・女性支援ネットワークの世話人をしてる。〔災害と女性〕情報ネットワーク URL: <http://homepage2.nifty.com/bousai/index.html>

家族・地域で備える!

家族と連絡がとれなくなり、どこにいるのかもわからない。そんな状況を想定したことはありますか? 災害時は、連絡が思うように取れなくなります。家族間で、災害時のルールを決めておきましょう。また、ご近所の方とは挨拶をかわし、お互いに顔見知りになっておくと、いざという時にスムーズに助け合えますね。

今すぐできる、災害時の

心構えと準備 個人で備える!

まず、自分の身を守るのは自分自身。それぞれの状況にあわせて必要なものを準備し、家具の配置や転倒防止、家屋の耐震診断など、自分でできる準備をしておきましょう。



家族会議をしておこう!

災害時を想定し、家族の防災会議をしておきましょう。家にいる時の避難方法、それぞれが別の場所にいる時の連絡の取り方など、子どもにも分かるようルールを決めておくことが大事。

- 避難時の役割
- 避難所への避難経路の確認 (子どもと一緒に歩いてみよう)
- 連絡が取れないときの待ち合わせ場所
- 子どもが留守番している時はどうするか

各家庭に準備

各家庭で、非常用リュックに用意しておくといいいものをご紹介します。その他、貴重品もすぐに取り出せるよう用意しておきましょう。

- 非常食・飲料水各3日分
- 医薬品
- 携帯電話と充電器
- 衣類・下着
- 防寒具
- 軍手
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ・予備電池
- ろうそく・マッチ
- 携帯トイレ
- 食品用ラップ
- 家族の写真
- 生理用品
- 水のいらないシャンプー
- 鏡
- ホイッスル
- ウェットティッシュ

地域ぐるみで備えよう!

ライフラインが止まった時を想定して、マンションの自治会などでも、非常用グッズや炊き出しセットなどを用意しておきましょう。また、ママネットワークはいざという時に助け合える大きな力になります!

- 一人暮らしの方は、ご近所との繋がりをつくっておこう (近所の方や友達と安否確認ができるように)
- 一人暮らしの高齢の方は特に地域との繋がりが大切です。区の高齢者見守りネットワーク等も活用しましょう
- 区や町会・自治会主催の防災訓練等に参加しましょう

妊婦・授乳中の方または子育て中の方はこんな物も忘れずに

おんぶ紐は、子どもを守りながら行動することができるので、持っているといいです。また、アレルギー体質などで特別な食品が必要な場合は、忘れずに用意しておきましょう。

- おむつ
- おしりふき
- 哺乳瓶・粉ミルク・水筒
- 清浄綿
- おやつ・鉛
- 調理済み食品 (離乳食など)

職場には何を準備?

移動をする時などに便利なガスニーカー! 職場に置いておくべき一品。また、下記の避難セットを化粧用ポーチに詰めて職場の引き出しに。

- 鉛・小銭
- 懐中電灯
- 除菌ティッシュ
- 帰宅支援マップ
- 携帯電話の充電器
- 携帯トイレ
- 携帯ラジオ
- 携帯カイロ

部屋の中を見直そう!

- ドアの近くやベッドの横などに、倒れそうな大きな家具を置いていないか?
- 食器棚や窓ガラスなどにはガラス飛散防止シートを貼っているか?
- 家具や家電には転倒防止器具を装着し、倒れないようにしてあるか?
- 重い物は低い位置に収納してあるか?
- 家具の上にガラス製品やテレビなど落下しやすい物を置いていないか?
- 前のめりではなく、後ろもたれ気味に家具を置いているか?

あなたも今すぐCheck!



女性消防団員 区内で活躍しています



消防団員募集中です!

(左) 鳥居美奈子さん (尾久消防団第四分団員・4年目)
(右) 久田 麻美さん (尾久消防団第五分団員・4年目)

先日、可搬ポンプを使用した放水訓練中に近くで火災が発生し、そのまま現場へ向かい初めての消火活動や火災現場の警戒活動を経験しました。この時、本当の火事の恐ろしさを痛感し、消防団員として何ができるのかを改めて見つめ直し、鍛錬していかなくてはと考えさせられました。

消防団員は同じ志を持った地域の仲間をつくれたり、ハイパーレスキューの施設を見学したりと、普通ならばできない体験もあります。

これからは、女性団員だからこそできる活動の幅を広げ、その役割を確立していきたいと思っています。



区が発行している「防災地図」には避難所などの詳しい情報を、「家庭用防災マニュアル」には防災に関する対策を掲載しています。区役所や区民事務所などで配布しています。

いざその時に大切なこと

文／川畑 真理子

人の声の温かさに救われて

命が助かった！家族も無事だった！近所も、あの人も大丈夫。どんな光景が目の前にあっても、もし生きてそう感じ取れたら、まずはお互いに声を出して喜び、声を掛け合うこと。

震災直後、被害の多少にかかわらず、呆然自失のなかで、恐ろしいくらいの静寂を経験した多くの人たちが、「大丈夫か？」という人の声の温かさに救われ、一人ではないと思えることがどれほど勇気になったかと話されました。

私が、当時勤務していた兵庫県立女性センターでは、震災発生約1週間後からいち早く相談を再開し、総合相談窓口として1年で約1万6000件もの相談を受けました。

「みんなの震災」から「それぞれの震災」に

相談は時間とともにその内容が変わってきました。震災直後は水や食べ物などライフラインに直結する相談でしたが、しばらくすると、雇用先に電話がつかからない、パートを解雇されたという、多くの中高年女性の雇用における不平等に関する相談が寄せられました。

また、1ヶ月、3ヶ月と時を経るにしたがって、日ごろは気づかないですんでいた親子、嫁姑、夫婦、近所との人間関係などによる心身の不調やストレスの相談も増えてきました。

当時の相談では、震災によって、夫の親族7人が一時同居し、朝から晩まで食事や洗濯に追われたら

め、自分の親の様子も見に行つてやれない、と涙ながらに語られた方もいました。「我慢せずに、協力を頼んだり、両親のところへ行ってもいいんですよ」と、話した記憶は今も残っています。

また、職場を失った夫がアルコールにおぼれたり、暴力を振るうようになったという相談もありました。

「今」やれていることを大切に

16年たった今相談を振り返ってみると、大切なことはそれほど特別なことではなかったように感じています。

普段の中で、お互いがどれだけ声をかけ合っているか、自分の気持ちを伝え合っているか、日ごろの関係をどう紡いでいるかということだったのです。

そして、いざという時には、その現実を受け入れる、でもあきらめない、がんばり過ぎない。あまり先々の心配をせずに、とりあえず「今」をやります。そんなふうに、ある意味柔軟な気持ちに切り替えられるかどうかだったと思います。

相談を通じて、人はどんなに変なことが自分の人生に起きても、その現実を受け入れた時、また前に向かおうという内なる力を、心と体に持つことができると確信しました。

人は混乱の中で、メディアが流す情報を正確に聞き取れません。支援する者は情報を丁寧に伝え、とりあえずの「今」がやれていることをねぎらい、寄り添うことが大切だと感じています。そして何より支援する側が気負いすぎないことが大切だと感じています。

川畑 真理子(かわはた まりこ)

1992年兵庫県立女性センター(男女共同参画センター)で女性問題カウンセラー。1995年の阪神・淡路大震災当時、神戸市長田区で自身も被災、震災の約1週間後(1月23日)からセンターの総合相談窓口で相談を受ける。現在は、とよなか男女共同参画推進センター「つづみ相談室」相談事業主任(カウンセラー)。

【相談窓口】

荒川区立男女平等推進センター(アクト21)「こころと生き方」DVなんでも相談 ※予約制・無料
☎3809-2890

アクト21事業案内

あらかわパスタール in 南千住

開催予定
平成23年10月22日、11月26日の土曜日(全5回)

内容
ママと子どもが通う、ふれあい館ってどんなところ？全5回を通して地域のババも知り合える！みんなが笑顔になる「あらかわパスタール」を開催します。

デートDV防止啓発講座

開催予定
平成23年12月上旬予定

内容
デートDVの早期発見・未然防止のため、区内の高校生が作成した啓発DVDの上映と講義を開催します。

荒川区 男女共同参画社会 推進計画の策定

区では、男女共同参画社会の実現に向けた取組みを総合的かつ計画的に推進するため、平成23年度～平成27年度までの5年間を計画期間とする「荒川区男女共同参画社会推進計画」を策定しました。計画の全文は、アクト21、区役所3階文化交流推進課、区役所2階情報提供コーナー、荒川区ホームページからご覧いただけます。

アクト21 事業レポート

男性の家事チャレンジ連続講座

平成23年1月22日・2月5日(土)
協力:東京都クリーニング生活衛生同業組合

1回目はアイロンかけの講座。Yシャツの洗い方と実際にアイロンを使った仕上げまでの手順についての講義を受けました。皆さん、持参したシャツを手に、時間の経つのも忘れて、一心に取り組まれていました。

2回目は料理講座。野菜たっぷりチャプチェと一口チヂミ。ボリュームたっぷり野菜がいっぱい取れる人気の韓国料理を作りました。どのテーブルからも「美味しい」との声が聞こえていました。



自分らしさってな～に?言いたいことが言える?

女性のための自己表現トレーニング

平成23年2月25日(金)～3月18日(金) 全4回
共催:ゆきやなぎの会

- 第1回目 私の毎日、家事・育児... やりたいことはあるけれど...
- 第2回目 言いたい言葉が出てこないーモヤモヤ イライラしている私
- 第3回目 ホンネを話したらどうなる?ー「ママ友」だけではさびしい
- 第4回目 子どもは可愛いけれどー仕事をしたい、輝きたい

アクト21交流のつどい

平成23年3月5日(土)
共催:荒川区女性団体の会

講演会では、NPO法人女性ネット Saya-Sayaの松本和子氏をお迎えし、DVが子どもにあたえる影響について、ご講演をいただきました。この他、男女平等推進団体による、太鼓の演奏やダンスの発表、書道や俳句などの作品が展示され、来場者の目を楽しませていました。



アクト21(荒川区立男女平等推進センター)
〒116-0012 東京都荒川区東尾久5-9-3
☎3809-2890 FAX 3809-2891

●開館時間/9:00～22:00
●休館日/12月29日～1月3日および保守点検日など
●アクセス/
都電荒川線、日暮里・舎人ライナー「熊野前」駅より徒歩約3分
都バス「熊野前」より徒歩約1分

男女共同参画週間記念講演会 ワーク・ライフ・バランスってなんだろう？ ～みんなが幸せで得する社会

開催日：平成23年6月19日(日)
講師：亜細亜大学経済学部教授 権丈英子氏

アクト21インフォメーション4号(平成23年3月発行)の特集において、ワーク・ライフ・バランスについてお話をいただいた、権丈英子先生を講師に迎え、講演会を開催しました。

講演会では、次の5つのポイントについて、お話をいただきました。

- ① ワーク・ライフ・バランスとは？
- ② 日本の現状
- ③ ワーク・ライフ・バランスの2つのアプローチ
- ④ ワーク・ライフ・バランスの先進国オランダの事情
- ⑤ ワーク・ライフ・バランスが実現するとどうなる？



プロジェクターを使って権丈氏が解説

ワーク・ライフ・バランスとは、それぞれの人生の段階に応じて、自分が希望する形で、さまざまな活動の組み合わせを決められるようにすることです。

この考え方が浸透していき、個人の希望が尊重され、その能力が存分に発揮できる社会になればと願っています。



来場した方たちは真剣に耳を傾けていました

本という処方箋

男女共同参画を気持ちよく深めるために
文 落合恵子

3月11日、あの時間。わたしは神戸にいた。軽い眩暈めまいのような揺れだけがあった。講演を終えて乗ったタクシーのカーラジオから、東日本大震災の第一報を聞いた。運転手さんご自身、阪神・淡路大震災の被災者だった。帰京して、「生理用品を被災地へ」とテレビ番組を通して呼びかけたのは、阪神・淡路大震災のとき、アメリカの女性の友人がそのことを至急のメールで知らせてくれたからだった。避難所が、「男性の目線」であることも、阪神・淡路大震災からの宿題であったのだが。

そこで今回は、災害と女性について言及した本たちを選んでみた。
むろんアメリカの女性ジャーナリストの『災害ユートピア』のように、災害を通して、ひととひとが柔らかに結ばれる助け合いの「ユートピア」を模索する様子を描いた作品もあるが。

『女たちが語る 阪神大震災』
ウィメンズネットこうべ／編
木馬書館

『悲しんでいい 大震災とグリーフケア』
高木慶子／著
NHK 出版

おちあいけいこ ● 作家・クレヨンハウス代表。最近の主な著書に『母に歌う子守唄』『母に歌う子守唄・その後』『絵本処方箋』(ともに朝日新聞社)、『崖っぷちに立つあなたへ』(岩波書店)。5月に『積極的那日暮ら』(朝日新聞社)、6月に『「孤独力」を抱きしめて』(小学館)が刊行。



『大震災・火災・津波に備える 震災から身を守る52の方法』
レスキューナウ／編
目黒公郎／監修
アスコム



『気持ちがあふさぐ、眠れない、イライラする... 震災の「心の傷み」を癒す方法』
倉成央／著
大和出版

